

令和5年4月20日

富山県美術館ーデザイン・コレクション展 第1期の開催について

富山県美術館では、4月20日(木曜日)から7月17日(月曜日)まで、3階の展示室5と展示室6において「デザイン・コレクション展 第1期」を開催しておりますので、ご案内いたします。<写真差し替えます>



概要

会期：2023年4月20日(木曜日)から7月17日(月曜日)

場所：富山県美術館3階 展示室5、6

- ・ 展示室5 デザインコレクション
- ・ 展示室6 瀧口修造コレクション
- ・ 展示室6 シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション

休館日：毎週水曜日

展示室 5 デザインコレクション

「ポスター・かお・からだ」

<写真差し込み予定>

ポスターがコレクションから、今回は様々な顔と身体をモチーフとしたポスターを紹介します。グラフィックデザインの幅広い領域のなかでも、書籍やパッケージといった掌に収まるものと比べたとき、壁に貼られるポスターは、私たちの身体に近いサイズの媒体であるといえるでしょう。ポスターに大きく登場する様々な顔は真正面から私たちを見据えるかのように、身体はその躍動感や存在感をもって私たちに語りかけてくるようです。

顔を単純化することによって表情がより強く伝わる、田中一光《銀座セゾン劇場》や田代卓のポスターや、ポーランドを中心としたイラストレーションによる様々な顔の解釈や表現にも注目してみましょう。また、松永真の《PEACE》のように、躍動感のある身体と鮮やかな色彩に平和と自由のメッセージを託した表現などを見ると、顔や身体そのものが、言葉を超えて何かを伝える大きな力をもっていることに気づかされます。顔と身体が、ポスターの上でみせる多様な表現や解釈を楽しんでいただければ幸いです。

展示室 6 瀧口修造コレクション

瀧口の部屋は、自身の収集物に加え、さまざまな作家や瀧口とかかわりのあった人たちからの作品や贈り物であふれていました。瀧口はそのような部屋を「これは『書斎』というべきものか。それこそ『影どもの住む部屋』というべきか。」⁽¹⁾と述べ、書斎と呼ぶことに懐疑していました。

また、「私の部屋にあるのは収集品ではない。」⁽²⁾と述べ、壁の作品についても「もしこれらの絵を、私のコレクションと見られるとすると、世上のそれとはかなりニュアンスが違うことになる。—中略— すべては、いつかしら私の壁に集まるのだ。」⁽³⁾と述べて、特別な空間だと意識していました。

瀧口は「自成蹊」というテキストでその点に触れていますが、これは司馬遷(しばせん)の『史記』にある「桃李不言 下自成蹊(とうりものいわざれども したおのずからこみちをなす)」という言葉に由来するものです。桃やすももは何も言わないが、その美しさや香りに人が集い下には小道ができる、すなわち、人格者は黙っていてもそれを慕って人が集まってくるという意味です。まさに瀧口のもとに自然に集まったものたちであふれる空間にぴったりの言葉といえるでしょう。

(1)(2)瀧口修造「白紙の周辺」『みづゑ』1963年3月号 p.69

(3) 瀧口修造「自成蹊」『藝術新潮』1963年7月号 p.91



<写真差し替えます>

このたびの展示は、瀧口自身やその部屋を撮影した写真を中心に展示します。なかでも写真家の大辻清司(1923-2001)は、少年時代に瀧口の写真論に影響を受けて写真家を志し、瀧口が西落合に新築した家の建築家と知り合いで何度も訪れています。部屋の写真は家が人手にわたると聞いて、せめて写真に記録したいと綾子夫人に申し出て撮影したものです。瀧口の生誕120年にあたり、多くの作家や知人が訪れあこがれた夢の部屋と在りし日の瀧口の姿を紹介します。

展示室6 シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション

テーマ：「ユダヤ系ポーランド人としてのゴールドベルク(3)美術家たちとの交流」



<写真差し替えます>

1909年ポーランドに生まれ、ユダヤ系の出自ゆえに波瀾万丈の生涯を送った音楽家、シモン・ゴールドベルク。全3回のシリーズを通して、ゴールドベルクの人生に影響を与えた芸術家たちに焦点を当てます。シリーズ3回目となる今期は、ゴールドベルクと交流のあった美術作家たちに注目します。

彼の美術コレクションは、時代に翻弄された自身の生涯と共鳴するかのよう、ナチス政権がもたらした苦難に遭遇した芸術家たちの作品が中心となっていました。なかでもイタリアの彫刻家マリーニや、バウハウスの一員としても活躍したバイヤー、画家ライヘル、ラブスらとは、直接の親交があったことがわかっています。

本展では、ゴールドベルク旧蔵の当館コレクション作品とあわせて、東京藝術大学音楽学部音楽総合研究センターの所蔵資料より、美術作家との交流を示す資料群をご紹介します。ゴールドベルク没後30年にあたる今年、激動の20世紀を生き抜いた芸術家たちの姿に想いをはせてみてはいかがでしょうか。

観覧料

コレクション展：一般 300円(240円) ()内は20名以上の団体料金

【次の方はコレクション展の観覧無料】

- ・ 小・中・高校生と大学生、70歳以上の方
- ・ 学校教育、社会教育活動としての児童・生徒の引率者
(観覧料免除申請書の提出が必要)
- ・ 各種手帳をお持ちの障がい者の方
(手帳所有の方1名につき付き添い1名まで無料)

(※)詳しくは、富山県美術館ご利用案内(外部サイトへリンク)をご覧ください。

コレクション展について

富山県美術館のコレクション展では、前身の富山県立近代美術館から現在までの収蔵作品を展示しています。年4回程度さまざまなテーマによる展示替えを行い、多彩なコレクションを紹介。当館2階の展示室1では絵画・彫刻を中心とし、3階の展示室5と展示室6ではポスターや椅子、富山県ゆかりの瀧口修造やシモン・ゴールドベルクのコレクションを展示しています。

**MAKE
TOYAMA
STYLE**
BEYOND CORONA, WITH US

